

ひのき ばら 檜 原 遺 跡

遺 跡 番 号	平成8年度登録
調 査 次 数	第2次
所 在 地	南陽市大字中落合字檜原他
北緯・東経	北緯38度03分07秒・東経140度07分47秒
調査委託者	国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
調 査 原 因	一般国道113号赤湯バイパス改築事業
調 査 面 積	7,400㎡
現 地 調 査	平成18年5月9日～11月2日
調査担当者	今田秀樹（調査主任）、伊藤邦弘、深澤 篤
調 査 協 力	置賜教育事務所、南陽市教育委員会
遺 跡 種 別	集落跡
時 代	奈良・平安時代～中世
遺 構	掘立柱建物跡、井戸跡、竪穴状遺構、溝跡、河川跡、土坑、柱穴
遺 物	土師器、須恵器、中世陶器、木製品、古銭
（文化財認定箱数：20）	



調査の概要

檜原遺跡は、南陽市南部の沖郷地区に位置し、今回の調査は、国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所の「国道113号赤湯バイパス改築事業」に係る緊急発掘調査として実施された。

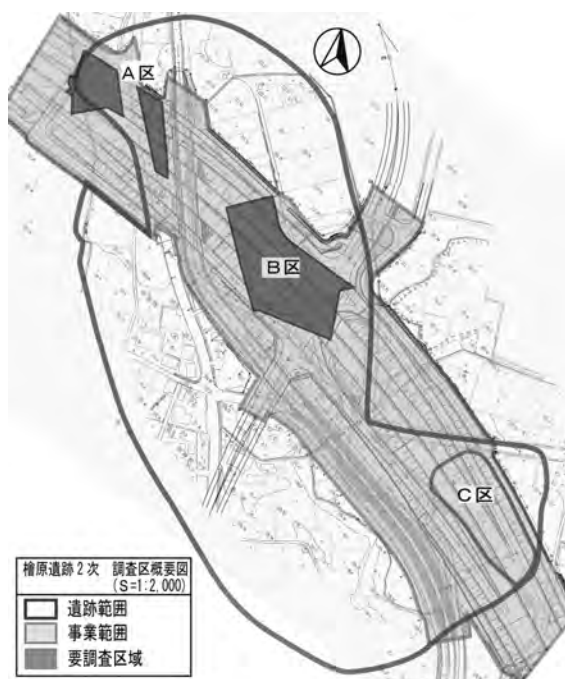
平成8年度に県教育委員会が計画路線内を踏査し詳細分布調査を実施した結果、檜原遺跡が確認・登録されることとなった。平成17年度には路線内の試掘調査がなされ、平安時代の土器などの遺物や遺構が検出された。

この結果をもとに、県教育委員会と山形河川国道事務

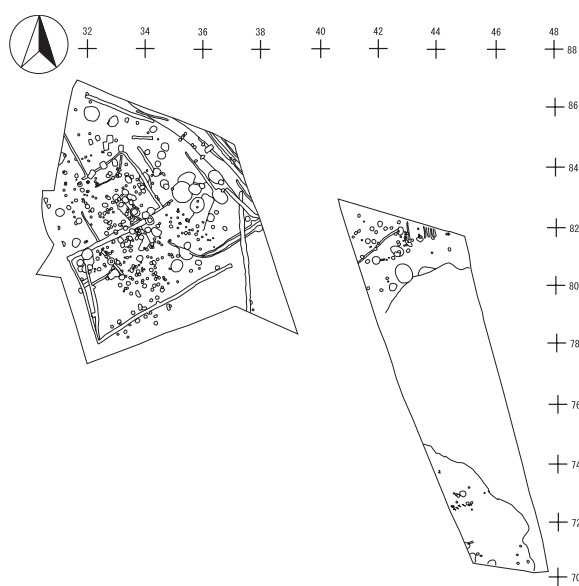
所の協議が行われ、事業予定地にかかる埋蔵文化財については、財団法人山形県埋蔵文化財センターが委託を受けて、記録保存のための緊急発掘調査を実施することとなった。

調査は、5月9日から11月2日までの約半年間に及んだ。今回の調査区域はA区・B区の計7,400㎡で、次年度にはC区の調査が引き続き行われる予定である。

遺跡は、吉野川と織機川に形成された宮内扇状地の扇央部、上無川の自然堤防上に位置し、標高は約222mを測る。南陽市には数多くの板碑が残っており、9世紀の創建と伝えられる宮内熊野神社の存在、経塚造営などからも、平安時代以降のこの地における庶民信仰の高まりと宗教行事の民衆化が広く浸透していたであろうことが理解できる。（石井浩幸ほか 2006『鶉の木館跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第150集）A区の南約200mにも板碑があって、「永仁」の紀年銘が読み取れる。



調査区概要図



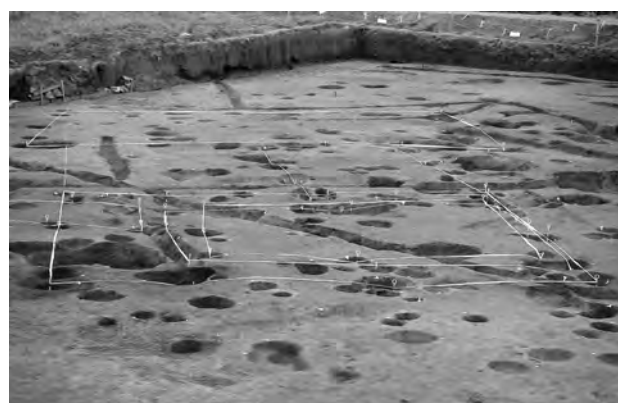
A区遺構配置図 (S = 1 : 1,200)



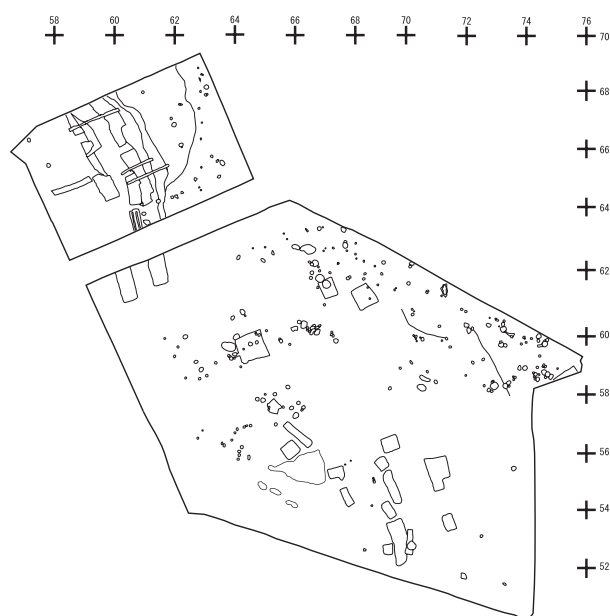
焼土遺構完掘状況 (南から)



調査区全景 (A区完掘状況 北から)



掘立柱建物跡検出状況 (南東から)



B区遺構配置図 (S = 1 : 1,200)

遺構と遺物

今回の調査では、掘立柱建物跡・井戸跡・堀跡・区画溝跡・溝跡・竪穴状遺構・河川跡・土坑・柱穴などの遺構が確認された。

A区では中世を主体とする遺構が検出され、中央部では掘立柱建物跡5棟が密集して見つかった。互いに重なり合っているものもあり、建て替えが行われたと考えられる。付属する施設として、木製の枠を持つ井戸跡1基のほか、素掘りの井戸跡6基と堀跡を確認した。北東部では幅およそ2m、深さ約80cmの区画溝が見つかった。

B区の遺構は平安時代のものである。竪穴状遺構が3基と溝跡、河川跡などが検出され、河川跡からは土師器・須恵器が多数出土した。特筆すべきは、被熱して床や壁が真っ赤に焼けた遺構が30基ほど見つかったことで、形状は方形や溝状のものが多い。

遺物は、土師器・須恵器・中世陶器・古銭・近世陶磁器のほか、縄文土器や石鏃も出土した。A区の掘立柱建物を構成する柱穴からは礎板や礎石が見つかった。中世陶器は在地系のものと考えられる。古銭の一つは北宋の「元祐通寶」（げんゆうつうほう、初鑄は1086年）で掘立柱建物群近くの柱穴から出土した。B区河川跡出土の土師器・須恵器はほとんどが坏や甕である。また、縄文土器や石器の出土から、近くに縄文時代の遺跡があることが考えられる。

ま と め

調査により明らかになったこと、および今後の調査・研究の課題を整理すると次のことがらげられる。

A区の掘立柱建物跡は、板堀や区画溝などの付属する施設を含めて、出土した陶器、古銭が流通した中世の遺構と考えられる。

A区の大小の溝跡は、建物を区画したり囲んだものと推測でき、当時の居住域は、調査区の北や南の方向にさらに広がっていたものと考えられる。B区では、調査区東側を蛇行する河川跡から土器が多数出土したこと、竪穴状遺構が見つかったことなどから、集落の中心は調査で見つかった旧河川の東側に存在すると推察される。

B区西側の焼土遺構の性格については不明な点が多く、類例などを調査中だが、土師器焼成や製鉄、鍛冶などの生産にかかわる遺構、あるいは火を使った祭祀の場であった可能性などが考えられる。



永仁銘板碑（東から）



堀跡（南東から）



井戸跡（西から）



礎板出土状況（南から）



区画溝（南東から）



縄文土器出土状況（東から）



土坑遺物出土状況（南から）



土師器



竪穴状遺構断面（南から）



須恵器



調査風景（河川跡、南東から）



中世陶器